



## 画竜点睛

「歳月人を待たず」という言葉がありますが、あっという間に1月が行ってしまい、2月も逃げてしまったような気がします。そして3月。気付けばいたるところに春の息吹が感じられるようになり、学校では6年生を送る会が行われたり、卒業式に向けて練習が始まったりしています。

このような中、本年度最後の全校朝会にあたり、このひと月を実りあるものにしてほしいと願い、「画竜点睛（がりょうてんせい）」ということを児童に話しました。意味はご存じのとおりかと思えます。今から1500年ほど前、中国で書かれた「歴代名画記」の中で、張という名前の画家が、金陵安楽寺というお寺の壁画に白竜を描いて、その睛（ひとみ）を書きこんだところ、たちまち風雲生じて白竜は天に上ったという故事から、物事を立派に完成させるための最後の仕上げ、また、わずかなことで全体が素晴らしいものとなるたとえです。（参考：広辞苑）

つまり、大事な仕上げをすることにより、やってきたことに命が吹き込まれ本物の仕事になる。やり切ることの大切さを教えてくれています。

児童一人一人がこの言葉を意識して残りの日々を過ごし、6年生は素晴らしい卒業式を、5年生以下は素晴らしい修了式が迎えらることを期待しています。



## 命を守るために

3月1日に埼玉県戸田市の中学校に刃物を持った高校生が侵入するという事件が起きました。内容についてはニュース等の報道をとおしてすでにご存じかと思えます。このようなことは絶対にあってはならないのですが、万が一に備え、本校でも児童の命を守るために様々な訓練を行っています。本年度は避難訓練を4回実施しました。地震想定、火災想定、水害想定、そして3学期に行った不審者対応の訓練です。不審者対応では倉吉警察署の方を講師に、職員がいかに冷静かつ素早くチームで対応できるか、そして児童をいかに落ち着いて避難させることができるかをシミュレーションしながら訓練を行いました。全校児童も警察の方の講話を聞き、学校外での対応も学びました。



これら4つの避難訓練に加え、なでしこ学級緊急対応訓練も全校で実施しました。なでしこ学級には、学校だより第1号でも紹介した医療的ケアの必要なりチャードソン・恵美里さんが在籍しています。彼女の急な体調変化や使用機器のトラブル等で救急搬送が必要な場合を想定し実施しました。「なでしこタイムが始まります」という全校放送とともにエミリさんの搬送に支障がないよう静かに待機したり、搬送経路をあけたりする訓練を行いました。この訓練は、エミリさんのためだけではなく、お互いを思いやり、お互いの安全のために必要なことであることを児童は事前に学習しており、円滑に訓練ができました。

このように、全校で様々な訓練をすることとおし、学校として児童の命を守る体制を整えるとともに、児童一人一人が自らの命を守るすべを学ぶ学習・体験を積み重ねています。